

仏様のおはなし新シリーズ第126集「母の姿」

わたくしはインコを二羽飼っています。ある日一羽の様子がいつもとは違つており、心配になつたので動物病院へ連れて行きました。検便やレントゲンを撮つてもらい獸医さんから診断内容を伺うと、驚いたことにお腹に卵を抱えておりました。インコのメスは相手が人間であつてもパートナーと認識すれば発情し無精卵を作る本能があるそうです。しかし小さな体のインコにとつて卵を産むことは大きな負担になり、下手をすると命を落とすということで、可愛いあまりに撫ですぎてしまい発情させてしまつたわたしは大変申し訳なく、そして無事に卵を産んでくれることを願うばかりでした。その晩、無事に産んでくれて安堵したのですが、卵を産んだインコが普段であればケージを開けてあげれば喜んで飛び出してくるはずが一切出でこようかせず、それどころか手をケージの中に入れようとすれば威嚇をしてくるのです。どうやらインコは産んだ卵を大切に守つていたようです。ご飯を食べるとき以外は卵から離れることはありませんでした。そんな母が子を一生懸命に育てようとする姿を見て、わたしも母から寝る間を惜しみわたしを立派に育てるべく苦労させてきたのではないかと考えさせられました。反抗期には母に背を向けることがありましたし、汚い言葉を浴びせてしまつたこともあります。しかしそれでも子として見捨てずわたしをここまで育てくれたことに感謝の気持ちでいっぱいです。

阿弥陀如来は母のように、背を向け続けるわたしたちを救わずにほおられない、見捨てずに必ず浄土に救うと誓つております。

インコの母としての姿を見て今あるわたしの命が母のおかげであり、また阿弥陀如来に見守られているのだと気付かれ、自然と手を合わせ「なんまんだぶ」とお念佛申すのでありました。



福岡組

検索